

分析結果報告書〔3〕 1 / 2

1. 3 水質試料 (全磷)

| | |
|-------------------------|--|
| 機関コード | |
| 機関名 | |
| 電話番号 | |
| 国際的な認証等の取得 (複数回答可) | 1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(か'仆°25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している |
| 分析主担当者名 | |
| 分析主担当者の経験年数 | () 年 |
| 分析主担当者の実績 (年間の分析試料数) | () |
| 分析(主)担当者以外の分析結果の確認 | 1. あり 2. なし |

<分析結果>

| 回数 | 分析結果 (mg/L) 注1) | 検出下限値未満での検出下限値 注2) |
|-----|-----------------|--------------------|
| 1回目 | 検出下限値以上 注2) | |
| 2回目 | | |
| 3回目 | | |

注1) 実施要領5の希釈方法に従って共通試料1を水で20倍希釈して調製した分析用試料中の濃度 (mg/L) を記入する。
記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。

「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 分析結果 (検出下限値以上) は有効数字3桁、検出下限値未満での検出下限値は有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

| | |
|--------|--|
| 分析開始月日 | 月 日 |
| 分析終了月日 | 月 日 |
| 分析方法 | 1. ペルオキシ二硫酸カリウム分解法 2. 硝酸-過塩素酸分解法 3. 硝酸-硫酸分解法 4. 流れ分析法 注3) 5. その他 () |
| 使用した水 | 1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 () |

注3) 「流れ分析法」とは、FIA (フローインジェクション分析) 及びCFA (連続流れ分析) を示す。

<ペルオキシ二硫酸カリウム分解法>

| | |
|----------------------|--|
| 試料 (分析用試料) の希釈 濃縮 | 希釈倍率 () 注4) 濃縮倍率 () 注4) |
| 試料 (又は希釈又は濃縮した試料) 量 | 1. 50 mL 2. その他 () mL |
| ペルオキシ二硫酸カリウム溶液の添加量 | 1. 10 mL 2. その他 () mL |
| 分解瓶の種類 | 1. 四ふっ化エチレン樹脂製の瓶 2. 耐熱・耐圧ガラス製の瓶 3. その他 () |
| 容量 | () mL |
| 加熱分解 温度 | 1. 約120℃ 2. その他 ()℃ |
| 時間 | 1. 30分間 2. その他 ()分間 |
| 加熱分解後の溶液の分取量 | 1. 25 mL 2. その他 () mL |
| モリブデン青の溶媒抽出 | 1. 行わない 2. 行う 2. の場合 溶媒の種類 1. DIBK 2. その他 () |
| 吸収セルの光路長 | 1. 10 mm 2. 50 mm 3. その他 () mm |
| 測定波長 | () nm |

注4) 希釈倍率又は濃縮倍率のいずれか一方を記入する。
希釈又は濃縮しない場合には、希釈倍率又は濃縮倍率を「1」とする。

<硝酸-過塩素酸分解法>

| | |
|-----------------|--|
| 試料 (分析用試料) の分取量 | () mL |
| 硝酸の使用量 | () mL |
| 過塩素酸の使用量 | () mL |
| 加熱分解 (中和) 後の定容量 | 1. 50 mL 2. その他 () mL |
| 加熱分解後の溶液の分取量 | 1. 25 mL 2. その他 () mL |
| モリブデン青の溶媒抽出 | 1. 行わない 2. 行う 2. の場合 溶媒の種類 1. DIBK 2. その他 () |
| 吸収セルの光路長 | 1. 10 mm 2. 50 mm 3. その他 () mm |
| 測定波長 | () nm |

分析結果報告書〔3〕 2 / 2

<硝酸-硫酸分解法>

| | |
|---------------|--|
| 試料（分析用試料）の分取量 | () mL |
| 硝酸の使用量 | () mL |
| 硫酸の使用量 | () mL |
| 加熱分解（中和）後の定容量 | 1. 50 mL 2. その他 () mL |
| 加熱分解後の溶液の分取量 | 1. 25 mL 2. その他 () mL |
| モリブデン青の溶媒抽出 | 1. 行わない 2. 行う 2. の場合 溶媒の種類 1. DIBK 2. その他 () |
| 吸収セルの光路長 | 1. 10 mm 2. 50 mm 3. その他 () mm |
| 測定波長 | () nm |

<流れ分析法>

| | |
|--------------------|--|
| 測定方法 | 1. JIS K 0170-4の7.3.3(酸化分解前処理モリブデン青発色FIA法) 2. JIS K 0170-4の7.3.5(酸化分解前処理モリブデン青発色CFA法) 3. その他 () |
| 測定装置 メーカー 型式 | () () |
| 加水分解及び酸化分解率の確認 注5) | 二磷酸カリウムの加水分解及び酸化分解率 () % ピリドキサル5-リン酸一水和物の加水分解及び酸化分解率 () % フェニルリン酸二ナトリウムの加水分解及び酸化分解率 () % その他の物質 () の加水分解及び酸化分解率 () % |
| 繰返し性の確認 注6) | 繰返し回数 () 回 繰返し性 (CV) () % |
| 測定波長 | () nm |

注5) 酸化分解前処理における加水分解及び酸化分解率を求めている場合に記入する。
加水分解及び酸化分解率の確認を行った物質（二磷酸カリウム、ピリドキサル5-リン酸一水和物、フェニルリン酸二ナトリウム、その他）欄に記入する。その他の物質では、物質名も記入する。
注6) 検量線の間濃度の標準液を用いて繰返し測定して繰返し性（相対標準偏差、CV%）を求めている場合に記入する。

<検量線の作成等>

| | |
|------------------------------|--|
| 定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 | 1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () () |
| 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 | () 最小 () μg ~ 最大 () μg 注7) 作成範囲の単位：1. μg 2. mg/L 3. その他 () () |
| 標準液濃度の表示 注8) | 1. 磷 (P) 2. 磷酸イオン (PO_4^-) 3. その他 () |
| 試料の指示値 注9) | 1回目 () 2回目 () 3回目 () |
| 空試験の指示値 注10) | () |
| 検出下限値 注11) | () mg/L |

注7) 分析装置で測定する溶液中の量 (μg) 又は濃度 (mg/L) 等を記入する。
注8) 検量線の作成に用いた標準液濃度の表示方法を示す。
注9) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。
注10) 標準添加法では記入しない。
注11) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

<試料の保存状況>

| | |
|---------------------------------|---|
| 保存状況 保存方法等 保存時間 注12) 保存温度 | 1. 冷暗所保存 2. 保存しない（直ちに分析） 3. その他 () 約 () 時間 約 () $^{\circ}\text{C}$ |
|---------------------------------|---|

注12) 時間単位で記入する（例えば、60分では1時間とする）。

| | |
|------------------------------|--|
| 分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点 | |
|------------------------------|--|

| | |
|-----|--|
| 計算式 | |
|-----|--|